みんなで考えよう！木のまちのものづくり。

創刊号

ものづくり勉強会

NEWS LETTER

How to DESIGN?

発行 海山町林業研究会　発行責任者：今井康人
事務局 :〒519-3408　三重県北牟婁郡海山町大字便ノ山２００　森林組合おわせ内
tel 0597-32-0275　fax 0597-33-0028　担当：川端将文・甲賀廣代<KOKUYO>

2003/02/2

このニュース・レターは、タイトルにある様に、わたしたちの「木のまち」づくりを皆さんと考えていくために発行しました。今回は昨年末行われた勉強会の報告を兼ねた準備号です。今後の取組みの予定や情報を皆さんにお知らせしていきたいと思います。

東京芸術大学の先生方をお招きして

海山町林業研究会では、昨年（平成十五年）十二月十二日に 第一回ものづくり勉強会」を開催しました。これは、海山町はもとよりこの一帯で生産されている尾鷲ヒノキを、もっと活かして元気なまちづくりに繋げていきたい、その一環として「工芸」という切り口でものづくりを考えて行こうという事で、東京芸術大学の工芸科の皆さんをお招きして開催することとなりました。

当日お越し頂いたのは鋳金（鋳もの）漆芸 木工芸それぞれの研究室の先生方三名、木工芸研究室二名の助手の方です。

当日は朝早くから東京駅に集合してスタートのちょっとハードな行程となりました。

「ぬし熊」で古い曲げわっぱを熱心に観察

当日の見学の様子

まず地域の特徴やものづくりの現場、まちの様子を見ていただこうという事で約半日という駆け足の見学でしたが、尾鷲のぬし熊、畑中木工、田原や、ウッドメーク北村、尾鷲神社、大田賀の森林などを見ていただき、翌日は熊野古道と海から楯ヶ崎などを訪れました。皆さん疲れも見せず、どの場所も非常に熱心に見学されるので、いくら時間があっても足りないという状況でしたが、とくに日常的にものづくりにかかわっていらっしゃるだけに、素材や工程などについての質問・ご指摘は説得力のあるものでした。

先生方それぞれに、個々で頑張っている地域のエネルギー」を肌で感じて頂いたようで、

「畑中木工」にて　木工芸研究室の垣本さん（写真中央）は松阪の出身

木工芸研究室教授　田中一幸先生
（まとめ）

二～三気にかかったことがあります。その一つは、今日見えてる皆さんはじめ、見学させていただいたところも、一つの企業、個人として非常に頑張っているけれども、これは「個の力」です。「塊としてのパワー」というところへなかなか行きにくい。過去の（成功した）町おこし、村おこしの状況を見てると、ある村、ある町が一つの塊としての、全体の見え方、力を発揮していってるように思えます。どうしたらそうなるかを、お互いに話し合いながら学び合いながら、一番良い方法を見付けていく努力が必要だろうと思います。

それから、「芸術」という言葉ですね。、簡単に言うと芸術じゃなくて良いのです。ものをつくるとき我々も、芸術とは何かを考えてやってるわけではありません。出発点は使いやすさ、心地よさ。特に家具のような、人の肌と材料が触れ合うようなものであれば、皮膚感覚という素材と人の関係をまず考えてもらい、芸術の問題は実際に勉強を続けていく過程のなかで、ちょっと出てくる程度と思って頂ければいいと思います。

翌日はクルーズ日和の快晴

森林組合おわせ会議室にて　勉強会の様子

最後に、活性化で大事なのは外部にどう訴えていくかですよね。まちの住人がお互いに物を買い合うというんじゃ発生にならないし限界もある。日本ばかりじゃなくて世界を相手に、仕事ができるようになりたい。そのためには受け入れられるデザイン。ものを見た時、あ、これが日本の尾鷲のあの場所、あの空間、あの世界から生み出されているという事が誰にでもわかるようなところまで持っていければすごい力になると思います。

まずは、この三つのことを念頭に、どうしていくのか考えを進めたいと思っております。

今日初めて皆さんに出会い、暖かいものを感じました。予想よりもはるかに内容ある仕事を持っていた尾鷲地区、このあたりは初めてなんですが、とても好きになりました。ありがとうございました。

今後の活動について

研究会事務局より

＊さて、今後の活動についてですが、来年度も引き続き海山町林業研究会をベースに、実際のものづくりに向け、活動を推進していく予定です。もちろん海山町だけでなく広く東紀州地域を含めたみなさんと共に地域を元気にしていきたいと考えています。

＊活動にあたり、近頃盛んに言われている「企業の社会的責任」という観点から、地域活性を新たな命題として試みているコクヨ株式会社と協働しています。その時々に応じ、芸大の先生方をはじめとする専門家をコーディネイトしたり、市場に詳しい企業ならではの案をお願いしています。

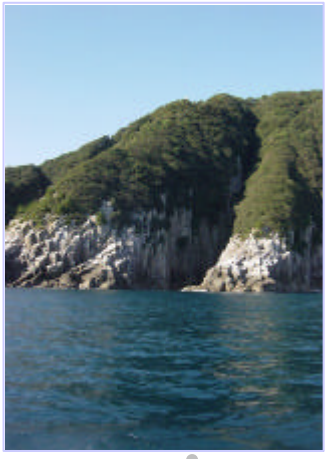
＊具体的な取組みの内容はまたお知らせしていきますが、何よりも大切なのは、みんなで地域のものづくりを育てていこう！という意気込みだと思います。スタッフ一同張り切っていますのでみなさん、どうぞ宜しくお願いします！

＊なお、皆様からのご意見・ご希望は研究会で随時受け付けておりますので、ファックス（表面冒頭に記載）にて事務局　森林組合おわせ内）までお寄せ下さい。

外から見た東紀州の魅力

先生方撮影のスナップ

Owase



Miyama

県職員　岩田昭人さん

このあたりは、木の町魚の町」と言われるんですが、どこが木の町なんでしょうか、どこが魚の町なんでしょうかっていうところでしてね。

速水林業　川端久夫さん

ずいぶん木を無駄遣いしているのではないかと先生の作品を見せていただいて痛感をしております。良い物を見る目を、もっと養わないと大変なことになるんじゃないかなと。

畑中木工　畑中良美さん

最近自分で感じているんですが、いろんな物が溢れている時代で、なぜ木で物をつくるのかっていう木の良さをわかってもらえるものづくりをできたらいいなと思ってまして。「その木」じゃないとできないような一点ものといいますか、木でやるべき仕事というのはそういうところにあるのかなって。デザイン有りきではなくて、その木でやる必要があるものを作っていけたら良いなと感じます。

中村早苗さん

尾鷲にいる関係で桧を使いたいなということで使ってはおるんですけども。

服部篤彦さん

どうしても山に入ってみますと、朽ち果てた木が非常に多いんですね。元々材木が非常に豊富にあるせいか、あるいは経済的なバランスのことも考えてうち捨てられているのか知りませんけれども、規模、あそこまでするにはずいぶん時間がかかっているんだと思うんで、もっと有効に使えるように使うように考えたほうがいいんじゃないかと思っております。

ウッドメーク北村さんにて

紀州備長炭を製造販売　津村寿晴さん

私も地産地消とか、環境資源、あるいは地元で作ったものというものに興味を持っておりますが、中に来れば来るほどに言葉だけが一人歩きに終わってしまっている。

尾鷲　小川辛太郎さん

地域の自然を生かした商品作り、家作り、産業づくり、そういったものをできないかと思いまして、日々いろんなところへでかけてっては、アイデアを出したりだとか宣伝したりだとかしています。

先生方が宿泊したキャンプイン海山の朝。　きれい！

そのエネルギーに自信を持つべきというコメントもされていました。今後の取組みにむけ明るい材料となるのではないでしょうか。頻繁に言われていたのは、やはり対外的なアピールが不足しているということ、豊かな自然環境が残っていることがすばらしいといったことです。毎日地域で見ていると気が付かないことも、外から訪れた目からは新鮮ということが大切な事ですね。

芸大の先生というと近づきがたいイメージがありましたが、実際には皆さんフレンドリーで、親しみやすい方たちでした。漆にしろ木材にしろ金属にしろ、原料はそれぞれ自然の恵みから得られるものです。そうした素材に対する思い入れは、山仕事などに共通するものかもしれません。

大田賀の森林を見学、速水氏より森林についてレクチャーを受ける

盛況だった勉強会

勉強会は夕方十八時より森林組合おわせの会議室にて行われました。総勢50名の参加と盛況で、それだけこの地域におけるデザインやものづくりの契機といったことへの関心の高さが伺われました。

東京芸術大学は校舎が東京の上野と茨城県の取手にわかれており、芸術に関する広範な研究活動が行われています。油絵や日本画、あるいは彫刻などの学科があることは知られていますが、以外と工芸という分野は馴染みが薄いのではという事で、前半は先生方よりスクリーンやビデオを使って大学の概要や学生達の普段の研究活動や教室の様子、作品の紹介をしてきただきました。

後半は先生方より、皆さんの感想や要望を是非聞きたいという要望もあり、ひとりづつ感想を述べていただきました。全部は紹介しきれませんが、幾つかご紹介します。

参加者のコメント

皆さんの貴重なご意見は
次回以降の検討材料にし
ていきたいと思います。

☀

東川康介さん

山仕事に従事しています。桧を削っているのが気持ちが良いとおっしゃって、普段自分たちが接している木というもので、そういう風に感じていただければ嬉しいなと感じました。

☀

歯科医師　中井孝佳さん

この地域には材料はたくさんあるんですが、ものづくりということでは少ない、そこらへんが欠落してるのかな。尾鷲には曲げわっぱという工芸品がありますけれども、それは少ないなかの一つで、もっともっと活用する資源があるのかなぁという感じをしております。

☀

学校美術教師　細井一真さん

こういう仕事に従事して地元に残ってもらえる子がひとりでも多く育てばなぁといつも思っております。何か、木の持っているぬくもりとか、そういうものを子供のころから教えられるのが産業の一つにならないかなと考えております。

☀

森林組合おわせ　大形聡子さん

私もいろいろ作ってはいるんですが、人まねしか出来ないものですから。

勉強会を終えて…先生方の感想

最後に先生方から頂いたコメントを紹介します。

☀

木工芸研究室助手　垣本圭子さん

世の中の傾向として)身近な自然や生活の中にあるゆとりに目を向けなくなってきているので、まず小さなことでいいので日常のなかで人々がゆとりを持てる気持ちになるような提案を、我々からしたいと思います。皆さんも気持ちの面から取組んでいただけると、今から私たちがやろうとしていることのきっかけになると思いました。

☀

木工芸研究室助手　薗部秀徳さん

口下手なので上手く言えないんですが、感想なんですけれども思ったより、地域として)すごい、明るい力があるという印象を受けました。

薗部さんの作品　文机

学生さんの作品も紹介

挨拶をされる今井会長

☀

漆芸研究室助教授　三田村有純先生

東京のような色んな情報やものが集まる場所から来たわけですが、非常に広がると思いますね。あれだけのものがあの値段で作られるのであれば販路は無限です。日本だけと思っちゃいけないんですね。相手は世界ですから。ここら辺がね、割りと気付かなきゃいけないとこなんですが、僕は15日に北京に行って21日に帰ってきて24日からパリに行くんですけれども、さっき僕がお話しました、「漆」イコールジャパンということはですね、ある時期、日本は漆、漆器を輸出する国として見られていたということなんですね。僕はこれから皆さんやらなきゃいけないのは、世界ブランドの確立というふうに思っています。これだけの資源と技術があって、何を作っていったい何を提案していくか、それがどこに、どういう人たちをターゲットにしていくかという見方の転換だけではないか、という風に思います。

☀

鋳金研究室助教授　橋本明夫先生

いろいろ皆さんのご意見伺いまして、まとまらないんですが、やはりこのなかで、いくつか具体的に起こしていけることもあるのかなと。その辺を積み上げていけば。今日出てきた意見を少し整理して、それからそのなかで可能性を感じるような内容について、少し話し合って積み上げて行けば、展開なり方法論なりがこう近づいていくんじゃないかなという感じがします。それで、なんていうんですかね、僕はこの町が持っている材料とかそういう、環境とそれをどうかしてこうという力という、三田村先生がおっしゃったように、販路なりターゲットを、もう少し広げていってみると、ここにあるものが価値がもっと見えてくるかなという印象があります。

いずれにしても時間を用する事だと思うので、そういう前向きな継続的な積み上げを考えて行けたらと思います。

勉強会後参加者と語る三田村先生